

2019年国立公園の訪日外国人利用者数の推計結果

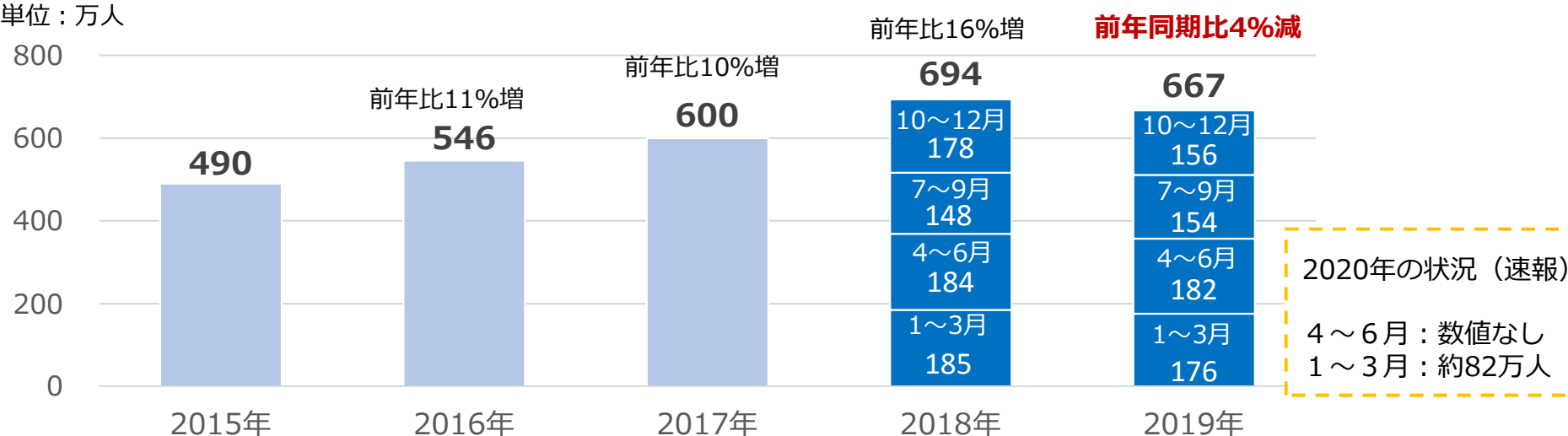
資料 4

- **2019年の国立公園の訪日外国人利用者数は約667万人と推計。前年と比較して27.1万人減（3.9%減）。**
- 国立公園外国人利用者数の約2割＊を占める**韓国が、前年比43.4万人（31.7%）減**となった。全国で25.9%減に対し、観光需要の高い地方エリアへの影響が大きく生じた。特に、航空路線の運休・減便等の影響が顕著となった8月以降を含む下半期の減少が著しい。利用者数の約3割＊を占める中国、約1.7割＊を占める台湾の増加率は前年と比較して伸びなかった。
- 公園別で減少数が多いのは、阿蘇くじゅう国立公園で、最大シェアで約7割＊を占める韓国客が減少し、前年比28.2万人（27.3%）減。次いで、支笏洞爺国立公園で、最大シェアで約3割＊を占める台湾客及び約2割＊を占める韓国客が減少し、前年比10.8万人（10.1%）減。
- 増加数が多いのは、富士箱根伊豆国立公園で前年比10.2万人（3.4%）増。次いで、伊勢志摩国立公園で前年比2.2万人（44.6%）増。

＊2018年におけるシェア

- 【参考】
- 2019年の訪日外客数は3,188万人（前年比2.2%増）
 - 国立公園外国人利用者数で最大の中国について、全国で14.5%増に対し、公園利用者数は前年比6.1万人（3.0%）増にとどまった。
 - 欧米豪の公園利用者の伸び率は好調（イギリス（前年比23.5%増）、ドイツ（同17.4%増）、フランス（同25.3%増）、カナダ（同12.6%増）、オーストラリア（同10.1%増）等）。ラグビーワールドカップ日本大会の開催が要因のひとつとして挙げられ、加えて、開催前の4～6月においても、イギリス、ドイツ、フランス、カナダ、オーストラリアの公園利用者数は前年比を3割以上上回り、欧米豪の公園利用者は着実に増加しているものと考えられる。

単位：万人



※四捨五入による端数処理により、合計値が一致しない場合がある。